

この教材見本は、実際の1カ月分の教材よりも回数・ページ数が少ないダイジェスト版です。

※実際の教材の1カ月あたりの学習量は、1回30分×8回です。

この教材見本は1カ月分の一部を抜粋して掲載しています。

下記の黒字が今回の掲載回です。

体験をもとに書く

- 1 第1回 アプローチ
- 2 第2回 アプローチ
- 3 第3回 アプローチ
- 4 添削問題

1

体験をもとに書く

第1回 アプローチ

30分

今回は「自分の体験」をもとにして作文を書くことを学習します。このテーマでは大きな社会問題のように予備知識も必要なく、また参照する資料やグラフ、課題文などありません。条件や制約が少なく、とても自由なテーマのようですが、次のような特徴があります。

「自分の体験」をもとにして作文を書くとは？

・「自分の体験」とは、自分に起こったさまざまな出来事を自分で関係づけながらまとめるものである。

↓「体験」にどのような意味があったのかを決めるのは自分。

攻略ポイント①

取り上げた体験を通して、何を伝えたいのかをよく考えること。とくに、設問で求められていることに注意する。

・「自分の体験」とは、今の自分にとって過去の出来事である。

↓「体験したときの自分」と「今の自分」との違いを意識する。

攻略ポイント②

取り上げた体験を、今の自分の視点から考え直すこと。そのとらえ直しが考察を深める。

それでは、「自分の体験」をもとに作文を書くことの特徴を踏まえて、今月の添削問題にとりかかりましょう。

今月の添削問題

準備①

あなたにとって忘れられない「失敗」はなんですか。一つ書いてみましょう。

準備②

その「失敗」の原因や環境と、その「失敗」から学んだことを書いてみましょう。

「失敗から学んだこと」という題で、二〇〇字以内で作文を書きなさい。ただし、作文全体を二段落に分けて書くこと。

この課題では、

・自分の「失敗」について振り返り、説明する

・その「失敗」から「学んだこと」を述べる

この二点が求められていますね。したがって、この課題の具体的な攻略ポイントは次のようになります。

今月の課題の攻略ポイント

①どのような「失敗」を取り上げるのか、設問で求められている「学んだこと」に注意して考える。

②取り上げた「失敗」を、今の自分の視点から考え直して考察を深める。

以下、攻略ポイントを意識しながら学習を進めていきましょう。

学習の流れを確認しよう

今回の単元では、作文の基本的な書き方・考え方を確認することを目標にして、学習を進めます。

読む人に伝わる作文を書くためには、どのように考えていけばよいのか一つ一つのステップを確認しながら、作文を書いてみましょう。

第1回 アプローチ

- ・失敗から学んだことについて考えよう 準備①
- ・具体的に説明するための材料を集めよう 準備②

第2回 アプローチ

- ・材料をもとに更に考えを深めよう
- ・「構成メモ」を書こう
- ・作文を書いてみよう

第3回 アプローチ

書いてみた作文を推敲しよう

今月の添削問題が完成！

失敗から学んだことについて考えよう

さて、今まで生きてきて一度も「失敗」をしたことがない、という人はあまりいないでしょう。まずは自分がこれまでどのような「失敗」を体験してきたかを振り返ってみてください。

！考え方のヒント

これまでの自分の体験を振り返ってみて、忘れられないような「失敗」はないか思い返してみる。

学校での出来事や、人間関係、勉強のことなどを切り口にして思い出してみるとよさそうですね。



つらい思い出もあるかもしれませんが、まずは自分の体験を冷静に思い出してみましょう。それが第一歩です。わたるさんは次のように書き出してみました。


 わたるさんのメモ①

◆過去に体験した「失敗」

- ・緑化委員を担当した際、学校の花壇かだんにチューリップの球根を植えた。毎日きちんと水やりをしていたのに、春先に大雨が続き、ほとんどの球根が根ぐされして発芽しなかった。
- ・友人たちと話をしていた時に、ついその場にはない親友をばかにするようなことを言ってしまった。あとでその話を聞いた親友は怒って、それ以来口をきいてくれなくなってしまった。
- ・技術科の授業の時に、木工作业で電動の糸ノコギリを使っていたところ、誤って指先を切ってしまった。
- ・定期テストの対策が間に合わず、試験範囲の中から出題されそうな分野を予想した。ところが、予想が外れて成績が大きく下がってしまった。

それでは、みなさんも「わたるさんのメモ①」を参考にして、自分がこれまでに体験した「失敗」をいくつか書き出してみましよう。これが、今回の準備①に答えるための作業になります。


 やってみよう① || 準備①

◆過去に体験した「失敗」

これまでに体験してきた「失敗」を書き出すことができたでしょうか。ここから今回作文に取り上げる「失敗」をしぼり込んでいくことになり
ます。その際に、課題で求められていたもう一つの条件を思い出してく
ださい。

・その「失敗」から「学んだこと」を述べる

今回の主題はこの「学んだこと」にあります。ですから、その「失敗」
が、今の自分の行動や考え方に影響を与えているようなものでなければ
なりません。

なるほど。「失敗」の体験ならばなんでも
よいというわけではないのか。今の自分に
影響を与えているような「失敗」を取り上
げることが必要なんだね。



「失敗について学んだこと」という題で書く今回の作文では、その
「失敗」が現在の自分とどのようにつながっているのか、ということをも
十分に意識することが大切なのです。

たとえ、その時は大きな「失敗」であっても、あなた自身がその「失
敗」の原因と無関係であったり、現在のあなたにはもう影響がないもの
であったりすれば、「失敗から学ぶ」ことはそれほどないかもしれません。
逆に、小さな「失敗」であっても、それがあなた自身の行動や言動が
原因であったり、また、他人との関係に影響するようなものであれば、
それは「失敗から学ぶ」ところが大きいかもしれません。

そこで、「やってみよう①」で書き出した自分の「失敗」を、例えば
次のようなポイントから見直してください。

！考え方のヒント

- ・その「失敗」の原因は何かを考える。
↓偶然に生じたものではなく、自分自身の考え方や行動が引き
起こした「失敗」を取り上げる。
- ・その「失敗」で失ったものは何かを考える。
↓その時だけで済むことではなく、あとに影響を与えた「失敗」
(例えば元どおりにならない物事があるなど)を取り上げる。
- ・その「失敗」は他人を巻き込んでいるかどうかを考える
↓結果的に自分だけではなく、他人にまで迷惑をかけてしまっ
た「失敗」を取り上げる。

これらは例ですが、このようなポイントから先にあげた「失敗」を見
直し、作文に取り上げるものを一つ選び、○をつけましょう。

確かに「運が悪かったな」で済ませ
られる例だと、「学んだこと」が見
つからないね。僕は親友の悪口を
言ってしまった「失敗」を取り上げ
ることにしたよ。



「1」で必要な力



「主題を決める力」

- ・与えられた課題を読み、何について作文を書けばよいのかをつかむ
- ・課題に合わせて、作文でいちばん伝えたいこと（Ⅱ「失敗から学んだこと」）を考え、決める

具体的に説明するための材料を集めよう

主題を決めることができれば、次はそれをわかりやすく説明するための材料を集めていきます。ここでは、どのようなことを失敗から学んだのかを詳しく説明していきましょう。

先ほど、今回取り上げる「失敗」を一つにしぼり込んでいく過程で、その「失敗」の原因や影響を確認しました。その内容にもとづきながら、次のように考えていきましょう。

- (1) 「失敗」の原因（Ⅱどうして起こってしまったのか）や、「失敗」の影響（Ⅱどのようなマイナスが生じたのか）について、自分なりにまとめてください。
- (2) (1)からあなたが「学んだこと」をまとめてください。今の自分が気をつけていることや、何か実践していることなどがあれば具体的に書きましょう。

例えば、わたるさんは次のように考えました。

わたるさんのメモ②

◆取り上げた「失敗」

- ・友人たちと話していた時に、ついその場にはいない親友をばかにするようなことを言ってしまった。

(1) 「失敗」の原因や影響

- ・「失敗」の原因は、その場を盛り上げようとして、親友のことをばかにするような話題を取り上げた自分の軽はずみな行動にある。

・その話を他の人から聞いた親友は怒って、それ以来自分と口をきいてくれなくなってしまう。その「失敗」で、親友との信頼関係を失った。

・おそらく周囲の人も、自分のことを「親友の悪口を言う人間」と見るようになったと思う。

(2) (1)から学んだこと

- ・人と話をする時に、その場にはいない人をおとしめるような話題を取り上げてはいけない。



それでは、みなさんも具体的に説明するための材料として、(1)・(2)を書き出してみましよう。

これが、今回の「準備2」に答えるための作業になります。

◆ 取り上げた「失敗」

(1) 「失敗」の原因や影響

(2) (1)から学んだこと



「材料を用意する力」

・「いちばん伝えたいこと」を伝えるための材料を用意する

● MEMO ●

4

体験をもとに書く

添削問題

30分

※ここからは『Z Study 解答用紙編』の作文「体験をもとに書く」にご記入ください。

一 「失敗から学んだこと」という題で、作文を書きます。

準備に取り組みよう

(注意) ・「準備①」は、第1回 アプローチ「やってみよう①」、「準備②」は、第1回 アプローチ「やってみよう②」と同じ内容です。
 ・「準備①」・「②」は、作文を書くための準備になります。得点にはなりません。裏面で書く作文の指導をする際にも参考にします。なるべく書くようにしましょう。

準備① あなたにとって忘れられない「失敗」はなんですか。一つ書いてみましょう。

準備② その「失敗」の原因や影響と、その「失敗」から学んだことを書いてみましょう。

今月の添削問題

「失敗から学んだこと」という題で、二〇〇字以内で作文を書きなさい。ただし、作文全体を二段落に分けて書くこと。(配点 50)

(注意) ・題名や氏名、学校名は書かずに本文から書き始めなさい。
 ・書き出しは一字分空けなさい。

添削者より

最後までしっかりと書き上げることができましたね。具体例から自分の考えを導き出すことができている。自分の経験から考えを示す作文では、ひとりよがりな説明にならないように伝えたいことをしっかりと絞り込めるとういえますね。次回もがんばりましょう。

添削者名 三島

制限字数	2 / 2	表現・表記	2 / 3	主題を決める力	15 / 15	材料を用意する力	7 / 10	考察力	5 / 10	構成力	7 / 10
------	-------	-------	-------	---------	---------	----------	--------	-----	--------	-----	--------

よくかけている作品は教材で紹介します。あなたの作文を紹介してもよいですか。
 紹介してもよい
 紹介してほしくない
 ※掲載の際は、本名などの個人情報掲載せず、イニシャルを使用します。



A(へ)部で失敗から学んだことを明確に示すことができている。「主題を決める力」はよいです。

10 5

な場私の今家のカる断
合はも練まのー日し
でもはも習で前の部して
油二度はし戦て前部に
断同じくは戦った練習に
せず失油断はした習し
に敗同断はなきたして
何物禁た相を属の試
事もしいう禁手よりいた
やっしないこと結果はも
ていようをたはは弱し
きたどん知った。思の日
たいんた。朝は毎朝
あ

C部の考察・まとめの部分にかける字数を増やすために、①(一)部の説明を省くとよいでしょう。①(一)部は、内容としてはあってもよいのですが、その後の説明でわかる内容です。

「構成力」で△3

B(へ)部で自分の失敗について振り返り、具体的に説明することができています。しかし、朝練習しなかったことがなぜ惨敗につながったのか説明されていいためわかりにくくなっています。

「材料を用意する力」で△3

例えば「そのため、試合中に体が動かず惨敗してしまった。」というように説明できるとわかりやすくなりますね。

②誤字です。「惨敗」

「表現・表記」で△1



最後の行まで書くことができているが大変よいですね。「制限字数」はよいです。

C(へ)部で自分で失敗した経験から学んだことをふまえ、今後に向けた目標を示すことができている。しかし、その説明がややわかりにくいため説得力に欠けてしまっています。

「考察力」で△3

油断せずに行動することについて、説明をもう少し具体的に示すとよいですね。例えば、「対戦相手や状況にかかわらず、常に自分のできる限りのことを精一杯やることを心がけ、油断することのないようにしていきたい。」というように示すと説得力が得られますね。